

# リウマチ・膠原病・アレルギー内科学

責任者：内科学講座リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野 藤本 穰 教授

## 学習方針（実習概要等）：

これまで学習してきた知識をベースに、実際の患者に対して問診・身体診察・カルテ記載を行なって臨床の実践に触れると共に、診療上の問題にいかに関わりアプローチしていくかを学ぶ。問題解決のためのアプローチでは教科書、ガイドライン、文献検索の方法など学術的側面だけでなく、患者に関係する家族・社会的問題をいかに医療スタッフ全体でアプローチしていくか学習する。本講座の主な対象である膠原病・リウマチ性疾患では、身体所見を中心に血液・尿検査所見、画像診断、病理診断、呼吸機能検査による評価を行い、全身性疾患の診断から治療法を学ぶ。

## 教育成果（アウトカム）：

膠原病・リウマチ性疾患、アレルギー性疾患を有する患者の心身両面における症状と日常生活上の障害を理解するとともに、これらの疾患の適切な診断を行うために、医療面接、基本的診察手技及び検査法について実践的知識を身につける。加えて、疾患の病態を把握し、患者や家族と話し合い、適切な社会的及び身体的治療目標に到達するように包括的な治療方法の作成を修得する。

（ディプロマポリシー：1,2,4,6,8,9）

## 到達目標（SBOs）：

### 外来実習

1. 膠原病・リウマチ性疾患、アレルギー性疾患の診断・治療についての実践的知識を身につけるため、担当医指導のもとに患者に接し、対話（医療面接）の中から診断上必要な主訴、現病歴、既往歴などを聴取し、患者に関する医療情報を指導医に簡潔に説明できる。
2. 身体所見の基本的な項目とその意味を十分理解し、実習時に基本的な手技を施行し、異常所見を体験して説明することが出来る。
3. 外来患者の疾患の診断に必要な情報の収集、身体所見、採血結果の意義を理解し、個々の所見について理解し、適切な診断に到達できる。
4. 医療スタッフとしての自覚を持ち、医師として患者に接する心構えや態度に留意し、患者や家族との円滑で十分なコミュニケーションを取ることができる。
5. 以上のことを通じ、臨床医に要求されるスキルを身に付けることができる。

## 病棟実習

1. 入院中の膠原病・リウマチ性疾患、アレルギー性疾患の患者に接し、円滑なコミュニケーションをはかり、診断・治療に必要な情報（現症、症状の経過、併存症、既往歴、家族歴、職業歴、環境及び行動歴）を聴取し、適切に診療録に記載できる。
2. 膠原病・リウマチ性疾患、アレルギー性疾患の診断における基本診察の意義を理解し、診察を行うことができる。
3. これまで得られた医療情報、身体所見から、鑑別診断を行い、必要な検査を計画できる。
4. 検査所見（胸部X線写真、CT、MRI、呼吸機能検査、血液検査、尿検査）を正しく理解して、適切に記載し、診断できる。
5. 既知の医療情報（ガイドライン等）を基に、患者の病態を踏まえて、科学的根拠に基づいて治療方針を決定できる。
6. 患者の医療情報、身体所見、検査所見、治療方針、治療上の問題点を指導医、医療スタッフに説明でき、検討会で症例提示できる。
7. 担当となる入院患者を毎日回診し、必要な情報の収集し、経時的変化（治療による改善）を確認し、指導医に報告し、診療録に適切に記載できる。
8. 検査及び治療時の安全確認の考え方を理解することによって、指導医の下で医行為基準に従って必要な処置を実施もしくは介助できる。
9. 医療スタッフとしての自覚を持ち、医師として患者に接する心構えや態度に留意し、患者や家族との円滑で十分なコミュニケーションを取る。
10. 医師、患者・家族がともに納得できる医療を行うために、インフォームド・コンセントのための文書作成方法を理解し、スチューデント・ドクターとして説明に参加できる。

## 鑑別診断・診療行為のため個別的行動目標

1. 主要症候のとらえ方を修得するため、下記の症候を有する当科関連疾患を列挙できる。
  - (1) 発熱
  - (2) 関節痛/関節腫脹
  - (3) 乾燥症状
  - (4) 筋痛/筋力低下
  - (5) 労作時息切れ
  - (6) 皮疹（紅斑/紫斑）
  - (7) 皮膚硬化/手・手指腫脹
  - (8) 下腿浮腫
  - (9) 末梢神経障害
2. 基本的疾患・症候群の特徴を修得するため、下記の疾患（病態）の特徴的な症候、背景を列挙できる。
  - (1) 関節リウマチ/悪性関節リウマチ
  - (2) 全身性エリテマトーデス
  - (3) シェーグレン症候群
  - (4) 多発性筋炎/皮膚筋炎

- (5) 全身性強皮症
- (6) 混合性結合組織病
- (7) ANCA 関連血管炎
- (8) 結節性多発動脈炎
- (9) 高安動脈炎/巨細胞性動脈炎
- (10) 脊椎関節炎
- (11) IgG4 関連疾患
- (12) ベーチェット病
- (13) サルコイドーシス

- 3. 基本的な診断の進め方を修得するため、必修事項にある基本的疾患・症候群については、下記の事項を整理しながら新患患者に対して病歴より診断ができる。
  - (1) 主訴は何か。
  - (2) どの部位（臓器）の病変か。
  - (3) 急性経過か、慢性経過か。
  - (4) 重症度の有無。
  - (5) 緊急度の有無。
  - (6) 鑑別疾患のうちどれが該当するか。
  - (7) 確定診断に必要な検査は何か。
- 4. 膠原病・リウマチ性疾患、アレルギー性疾患に関連した血液・免疫血清学的検査法を理解し、その検査値の意義および正常と異常との区別ができる。
- 5. 単純エックス線写真、CT、MRI、シンチグラム、血管造影などの画像診断について読影ができる。
- 6. 呼吸機能検査、血液ガス検査、6分間歩行試験について、その目的・検査適応を理解し、評価ができる。
- 7. 経胸壁心臓超音波検査について、その目的・検査適応を理解し、評価ができる。
- 8. 末梢神経伝導速度検査について、その目的・検査適応を理解し、評価ができる。
- 9. 皮膚、腎臓、筋等の病理所見について、その目的・検査適応を理解し、評価ができる。
- 10. 患者や家族への informed consent、診断に至った根拠と治療の長所・短所（副作用等）とその適応、予後等を説明することができる。
- 11. わかりやすく信頼性があり、客観的な診療録を書くことができる。

### **特に留意すべき注意事項：**

1. 病棟実習では学生専用カルテ（実習終了時にレポートとして提出）に患者の病歴、身体所見、経時的変化を SOAP 形式で記載する。外来においては新患の病歴、身体所見を取り直接カルテに記載する。学生は指導医と共に一人の医師として患者に対応する訓練を行うので、当科配属前にこれらの技能を十分修得しておくこと。準備が不十分な時は実習に参加できない。
2. 外来での実践的な診療について理解を深め、より多くの専門外来を体験する目的で、外来診療に参加する外来実習を実施する。個別実習を希望する場合、外来診察枠をグループで調整後、前日までに各自外来担当医に実習のアポイントを取っておくこと。病棟実習に支障のないようベッドサイド実習の時間帯を調整すること。

### **事前学修内容および事前学修時間：**

シラバスに記載されている各実習内容を確認し、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行い、医療面接・診察など基本的臨床技能実習で修得した手技について再確認をすること。また、実習前に e ポートフォリオ（WebClass）「日々の振り返り 今日の目標」にて、事前学修内容を踏まえた自己到達目標を設定し実習へ臨むこと。各実習に対する事前学修の時間は最低 30 分を要する。本内容は全実習に対して該当するものとする。なお、適宜 e ポートフォリオ（WebClass）を通し個人に対する実習のフィードバックを行う。実習では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

#### 第4・5学年臨床実習スケジュール[リウマチ・膠原病・アレルギー内科学]

指導医師名（リウマチ・膠原病・アレルギー内科）：①藤本穰教授 ②村田興則准教授 ③鈴木悠地特任准教授 ④大河原知治助教 ⑤駒ヶ嶺正嗣講師

曜	8:50～10:20	10:30～12:00	13:30～15:00	15:10～16:10
月 [場 所] [指導医]	オリエンテーション 症例配布 [医局] ③/⑤	ベッドサイド/外来実習 [病棟] ③/⑤	講義① [医局] ④	ベッドサイド/外来実習 [病棟] ⑤
火 [場 所] [指導医]	ベッドサイド/外来実習 [病棟] ④ ※月曜日が休日の場合はオリ エンテーション	研究カンファレンス [医局] ①②③④⑤	臨床カンファレンス [医局、病棟] ①②③④⑤	総回診 [医局、病棟] ①②③④⑤
水 [場 所] [指導医]	ベッドサイド/外来実習 [病棟] ④ ※月曜日が休日の場合は講義	ベッドサイド/外来実習 [病棟] ④	講義① [医局] ①	ベッドサイド/外来実習 [病棟] ①
木 [場 所] [指導医]	ベッドサイド/外来実習 [病棟] ②	ベッドサイド/外来実習 [病棟] ②	ベッドサイド/外来実習 [外来] ①	症例内容確認、問題演習 [医局] ②
金 [場 所] [指導医]	ベッドサイド/外来実習 [病棟] ⑤	ベッドサイド/外来実習 [病棟] ⑤	症例内容確認 [医局] ①	症例プレゼンテーション 口頭試問 [医局] ①

## 授業に使用する機械・器具と使用目的

使用区分	使用機器・器具等の名称	台数	使用目的
視聴覚用機械	液晶テレビ (LC-60XL20)	1台	教育用映像や資料の供覧
視聴覚用機械	ノートパソコン一式 (DELL inspiron)	1台	講義・実習における指導
視聴覚用機械	コピー機 (FUJI Apeos C2061)	1台	講義資料作成
視聴覚用機械	RAID 対応 TeraStation (TS3410DN)	1台	授業資料の保管

## 教科書・参考書等：

- 1 リウマチ病学テキスト 改訂 第3版
- 2 膠原病学 改訂 6版
- 3 膠原病・リウマチ診療 第4版
- 4 標準免疫学 第4版
- 5 病気が見える <vol.6> (免疫・膠原病・感染症) 第2版
- 6 免疫ペディア～101のイラストで免疫学・臨床免疫学に強くなる！

## 成績評価方法

臨床実習評価は以下の項目について 100点満点で評価する。(評価方法)

1. 知識：15点
2. 態度：30点
3. 技能試験：20点
4. ポートフォリオ：20点
5. 指導医評価：15点